

「救急の日(9/9)または救急医療週間(9/9～9/15)」に寄せて 新型コロナウイルス感染症第7波に際し、 健康な人が知っておくべき重い「事実」



琉球大学大学院 医学研究科 梅村 武寛

東京で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者の陽性確認数が10,000人を超えた7月某日、沖縄では3,500人を超えていました。この3,500人という数字は、人口比率換算をすれば、東京での35,000余人に相当します。日本の中でも(世界の中でも)沖縄は群を抜いてCOVID-19の集積率が高い地域であることを改めて認識いただくことがまずは重要です。

とはいっても、一時のような新興感染症に対する恐怖心が薄れた現在、普段、病院に通院することのない若年世代や健康な人たち、医療に関わりのない人たちにとって、この数字の持つ大きな問題、つまり沖縄県の救急医療がひっ迫していることを実感することは難しいのかもしれない。しかし実際は7月上旬の段階で既に、県内の主たる総合病院の病床は実質満床となっており、普段であればスムーズに受け入れてもらえる救急車や救急受診患者を断る病院が大多数となっています。

健康が当たり前と思っているあなたも、いつ急病や交通事故等で救急医療のお世話になるかわかりません。そんな時、目の前の病院に受け入れを断られ、少し離れた病院にも断られ、本島を縦断するかのように対応可能な病院を県内で探しても、それでも受け入れてもらえないとしたらどう思われるでしょう。これが今、県内で起きていることです。

皆さん自身が今健康でも、親戚や知人には病院に通院する病気を抱えている人がいるはずで、そのような基礎疾患のある人も、皆さんと同様に等しくCOVID-19に感染します。元々の臓器機能が低下している人では、入院が必要

となることが少なくありません。そうした患者さんによって、急性期病院が準備していたコロナ病床は既に満床です。入院が必要でも入院できないCOVID-19患者さんの待機リストができています。せいぜい1泊程度の滞在を想定した入院待機ステーションで、1週間、10日間と過ごす人々が出ています。

COVID-19と無関係の外傷や病気で入院や手術が必要な患者さんも、通常通り病院にやってきます。こうした患者さんたちの中にも静かにCOVID-19に感染している人がいます。入院時の検査では捉えることができず、入院後に発熱し再検査で初めて診断されることも少なくありません。その隣に入院していた人がそこから感染し、さらに看護師、リハビリスタッフにも感染し、その病棟は閉鎖を余儀なくされます。県内のいくつもの主要病院でこうした現象が発生しているのも、残念ながら事実です。

病棟閉鎖となれば、病院の入院可能病床数が数十床単位で一気に減少します。予定入院患者さんを受け入れられず、各種検査や手術が延期されています。ギリギリの状態治療に臨む予定だった人にとっては、文字通り致命的な延期となります。

少し目が痛い、指を切ってしまった、そんな症状で近くのクリニックにかかろうと思っても、もしあなたが発熱していたら、受診を断られることが起きています。そのため、軽症の人が主要病院の救急部門を受診する流れが起きています。ただでさえ患者受け入れが厳しい主要病院の救急部門に、軽症の人までもが集積しています。最も感染リスクの高い救急部門で働く

医師、看護師、関連職員、あるいは消防の救急隊員は、2年半に及ぶCOVID-19との闘いで既に疲弊し切っています。使命感だけで働き続けていると、自覚症状のないまま突然心身の限界を迎えます。救急現場からそっと離職するスタッフも出ており、救急医療ひっ迫の悪循環は加速しています。

以上は全て、2022年7月現在起こっている事実です。社会全体で1～2年前のようにこうした事実を捉える機会は少なくなっていますが、救急の現場から見ればそれは一種の情報操作に思えてなりません。確かにCOVID-19は、健康な人に対して直接致命的となる確率の低い疾患です。しかし、あなたが事故や急病、あるいは熱中症などで突然生命や身体機能の危機に陥る場面を想像してみてください。2022年7月現在、救急車を呼んだとしても、あなたは病院に受け入れてもらえず、迅速な治療を受けられない可

能性があります。間接的にCOVID-19はあなたの健康と生命を脅かし続けているわけです。

我々は今まで様々な社会生活を制限することによって、COVID-19に対処してきました。社会全体を見回してみると救急医療現場の疲弊と同じように様々な領域でのひずみ・疲弊が見られます。この状況では大規模な社会活動制限をさらに行うことは、ほぼ不可能でしょう。ただし、コロナウイルスが根絶されたわけではありません。今すぐ元通りの社会活動レベルに戻れるわけではないのです。その中で今までに学んだ経験した基本的な感染対策を継続していただくことは可能だと思います。人との接触の仕方、マスクの使用法、換気の重要性、今一度これらの基本的対策を見直し思い出していただけると幸いです。そして、COVID-19に限らず救急医療へのかかり方を皆さんが自分のこととして考えてみてください。

//////////////////////////////// **お 知 ら せ** //////////////////////////////////

会員にかかる弔事に関する医師会への連絡について (お願い)

本会では、会員および会員の親族（配偶者、直系尊属・卑属一親等）が亡くなられた場合は、沖縄県医師会表彰弔慰規則に基づき、弔電、香典および供花を供すると共に、日刊紙に弔慰広告を掲載し弔意を表すことになっております。

会員に関する訃報の連絡を受けた場合は、地区医師会、出身大学同窓会等と連絡を取り規則に沿って対応しておりますが、日曜・祝祭日等に当該会員やご家族からの連絡がなく、本会並びに地区医師会等からの弔意を表せないことがあります。

本会の緊急連絡体制については、平日は本会事務局が対応し、日曜・祝祭日については、緊急電話にて受付しておりますので、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

- 平日連絡先：沖縄県医師会事務局
TEL 098-888-0087
- 日曜・祝祭日連絡先：090-6861-1855
- 担当者 経理課：金城 直